

教材のチカラ

マララ演説音読授業の
試み

—ノーベル平和賞受賞演説を教材として—

岩間 龍男

(いわま・たつお 岐阜・元岐阜県立羽島北高校)

1. 教材としてのマララ演説の
魅力と懸念

2014年12月のマララのノーベル平和賞受賞演説(インターネットで「マララ演説」で検索するとYouTubeで視聴できるページが発見できます)を初めて視聴した時、私は感動のあまり涙を止めることができなかった。17歳の少女の悲痛ではあるが力強い訴えに心を動かされたのは、私一人ではなかっただろう。この演説は、例えばLet us become the first generationといったフレーズを何度も反復したり、easy ⇔ hard, strong ⇔ weakなどの単語と単語、文と文の対比が巧みで素晴らしい。キング牧師の“I Have a Dream”を彷彿とさせる演説だ。その演説の巧みさが、聴衆の耳を釘づけにする理由だろう。私はこの演説を視聴した時、これを使って授業をしたいという強い衝動にかられた。

この演説を教材として使いたいと思った理由は次の2点である。第1に、上記で述べたことからこの演説ほど音読練習に適した教材はないと思ったことである。第2に、世界には学校で勉強をしたいと思っても、その願いが踏みにじられている多くの子どもたちがいることを知り、学ぶことの貴重さを生徒たちに実感してほしかったことであった。

実はその一方で、この演説を教材として扱うにあたっては、大きな懸念もあった。女子が教育を受け

る権利を主張していたマララは、タリバン運動の憎しみの対象となり、彼らに銃撃をされ重傷を負った。このこと自体は許し難い蛮行である。しかし、この蛮行そしてマララの演説は、一歩間違えるとアメリカの対テロ戦争を正当化する根拠にされる恐れがある。

9.11事件の後、アメリカはアフガニスタンのタリバン政権、翌年にはイラク戦争でフセイン政権を軍事攻撃して崩壊させた。このようなアメリカの対テロ戦争は暴挙以外の何ものでもない。マララ演説を授業で扱うことによって、アメリカのこれまでの戦争政策が正義の戦争と教師や生徒の心に刷り込まれることはなんとしても防がねばならない。2016年度の中高の英語だけでなく社会科や家庭科の多くの教科書でもマララが取り上げられることが予想されるだけに、この視点は忘れてはならないと考える。

2. 『英語教育が甦えるとき』に
触発されて

私にとって2014年度は現役の英語教師の最後の年であった。長年、教師をしてきたにもかかわらず、この最後の年も授業では苦勞をしていた。授業が始まっても着席するのに時間がかかったり、私語や居眠りを注意したり、あるいは音読で全く声を出さなくなってしまうクラスもあった。

そんな時、『英語教育が甦えるとき—寺島メソッド授業革命』(明石書店、2014)という本を著者の山田昇司先生から頂いた。この本は、英語を苦手とする大学生たちに、どのように生き生きと授業に取り組ませたのかという実践記録であった。授業でいろいろと困っていた私はこの本を読んだ時、何か救世主に出会った感じがして心の中に閃くものがあった。山田先生が大学で行った『レ・ミゼラブル』の「リズムよみ」の授業の実践方法を、私の授業の中で使えないかと考え実践したのが、マララのノーベル賞受賞演説の音読授業の試みであった。

授業準備段階では、プリント作りについて山田先生から懇切丁寧なアドバイスをもらいながら準備をすすめた。①から⑤のプリントを作成した。

①「リズムよみ」プリント(1枚)次ページの下段参照

- ② フレーズ訳書き込み用の読解プリント(4枚)
- ③ フレーズ訳が書いてある英文視写プリント(2枚)
- ④ 資料1 「誰も耳にしないマララたち」
資料2 「米国無人爆撃機による爆撃被害者」
資料3 「マララとナビラ：天地の差」
(出典：ブログ「マスコミに載らない海外記事」)
- ⑤ グループ群読他者評価票

3. 「リズムよみ」を使った音読授業

このマララ演説の音読授業は、「リズムよみ」によるグループ音読そして群読を中心にして行った。

「リズムよみ」は、もともとは寺島隆吉先生(元岐阜大学教授)が創案されたものである。「リズムよみ」とは、強音節(主に内容語で記号は□)をペンで等間隔に強く打ちながら読むよみ方である。以下は、『英語にとって音声とは何か』(寺島隆吉, 2000, あすなろ社)のp.15の記述を元にして、私なりにまとめたものである。

リズムよみプリントの使い方と英語音声の原則

- ① 大きな□と○は強く、小さな□と○は弱く読む。
- ② 強く読まれる部分は時間的にほぼ同じ時間で読まれなければならない。(リズムの等時性)
- ③ □は内容語、○は機能語を表す。一般に内容語(□)は強く機能語(○)は弱く読まれる。時には内容語が弱く(□), 機能語が強く(○)読まれる。
- ④ 文全体のリズム(文強勢)が個々の語のアクセント(語強勢)より優先する。

4. 授業はどのように行われたのか

マララの音読授業は2年生のクラスで行った。それも学年3名の担当教師全員で、8クラスすべてのクラスで実施することとなった。文字通り音読練習にだけに焦点を合わせた授業で、①の「リズムよみ」プリントを使って、音読指導を行った。グループ音読テストの合格基準は、全員がそろってペンをたたき声が揃っていることであった。この音読方法は、学習意欲の低い生徒も含めて本当に楽しそうに取り組んでくれた。この授業は全体で次のようにして、6時間をかけて行った。

1, 2, 3, 4時間目

- ①背景知識を増やすために、④の資料1(1時間目)、資料2(2時間目)、資料3(3時間目)を読む。資料2と資料3はアメリカの無人爆撃機による民間人犠牲者の記事で、冒頭で述べたマララ演説への懸念を解消したいとの意図があった。
- ②授業で音読練習をする演説最後の3分間の部分のテープリスニング(省略することもあった)。
- ③①の「リズムよみ」プリントの中のPart 1(1時間目)、Part 2(2時間目)、Part 3 前半(3時間目)、Part 3 後半(4時間目)の英文をクラス全体で「リズムよみ」練習する。
- ④2人~4人のグループで「リズムよみ」の練習をさせる。
- ⑤グループごとの音読テストをする。
合格した生徒たちには、②の読解プリントと③の英文視写プリントを教室の前に置いておき、順次持っていかせて、自習の形で取り組ませる。

□ ○ ○ ○ □ ○ ○ □ ○ □ ○ □ □ ○ ○

Why is it /that countries which we call strong are so powerful

ホワイ イズ イト ザット カントリーズ フィッチ ウィ コール ストロング アー ソー パワフル

○ ○ □ ○ □ ○ □ □ ○ □ ○ □

in creating wars /but are so weak in bringing peace?

イン クリエイティング ウォーズ バットゥー アー ソー ウィーク インブリンギング ピース

①の「リズムよみ」プリントからの抜粋

5. 6時間目

- ①マララ演説の最後の6分半の部分(②の読解プリントで取り上げた部分)のDVDを見せる。
- ②これまでの2~4人の音読グループを統合して、6人~8人の群読グループを作る。グループ内をAとBに分けて、全員で読むところ、Aグループの読むところ、Bグループの読むところの3つの部分を交互に読む群読の練習をさせる。
- ③最後の6時間目に、群読グループにクラスの前で群読のプレゼンを行わせる。聞いている生徒たちには、⑤のグループ群読他者評価票を記入しながら、プレゼンを聞かせる。

〈理系クラスの6時間目の授業風景〉

その後、クラス前での発表を行う。発表中に何人かの私語があったので、「聞くときは静かに聞きなさい」と注意しなければならなかった。本当に落ち着きがないなあ。グループによっては、途中でバタリと止まってしまい、そこの所からやり直すグループもあった。また、ひとりだけChildをチルドと読んでいたりする子がいたり、強勢を置く場所がグループ内でズレてしまったりした場面もあった。そのたびに笑い声が聞こえたり、「がんばれ!」という掛け声がかけられた。やはり、これまでの2~4名の少人数のグループが6~8名の大人数の群読になると、全体で合わせて読むのが難しいようであった。発表するほうも、見ている生徒たちも、私もニコニコとして聞いていた。(実践記録より抜粋)

5. 生徒の感想より

- ①リズムをとるのに苦労した。みんなと息を合わせ、リズムを打ちながら発音するのは難しかったけど、とても良かったと思う。マララさんの強調したい部分が、実際の「リズムよみ」を通して理解できたと思うし、本人の声を聴くと本当に強い思いで言葉を伝えているなと感じることができた。自分もマララさんみたいに、日本語や英語でしっかり気持ちをのせて言葉を伝えていければいいな

と思いました。

- ②「リズムよみ」のときがすごく楽しくて良かった。難しいところもあって苦労したけど、最後にはちゃんと読めたし、楽しかった。マララの演説はなかなか興味深くて、人権について、少ししっかり考えてみるべきだと思った。
- ③マララは私たちと同じぐらいの年なのに、あんなにすごい演説をしていて、私には絶対できないことだし、マララの演説のおかげで勇気もらった人がたくさんいるから、マララの演説はすごいと思った。
- ④世界には、学校に行きたくても行けない子や、学びたいのに、お金や機会がなくてできない子がたくさんいて、自分たちが、日本が、どれだけ平和でめぐまれているかを痛感しました。世界が動き出すことで、多くの子どもたちが学習の機会を得られるようになってほしいです。でも、資料2と3を読んで、マララさんが注目されている背景に「過激派への攻撃の合理化」が見えて、その戦争によって無関係な多くの人が傷ついていることに、誰もほとんど見向きもしないことがわかりました。
- ⑤資料2と3に出てきた、無人機の爆撃によって、おばあさんを亡くしてしまった女の子(ナビラ)の話はひどい話だと思った。また、いろいろ調べてみようと思うきっかけとなった。

6. おわりに

この「マララ演説音読授業の試み」の実践記録は、もともとはA4判で66ページのかかなり長い論文であった。この実践記録では、具体的な授業の様子、授業準備の過程と実際の使用プリント、教師の喜び迷い苦しみなどが、いいことも悪いことも含めて克明に赤裸々に記述されている。この論文は、インターネットで「マララ演説音読授業の試み」と入力してもらえば、検索できる。これは「寺島メソッド同好会」のホームページに公開されたものである。<http://kigouken.jimdo.com/> 本実践に興味を持っていただけた方はぜひご一読いただき、新英研のMLなどにコメントを投稿していただければ、これに勝る喜びはない。